

---

# 彼らは足を止めることなく

カラー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼らは足を止めることなく

### 【Nコード】

N0874H

### 【作者名】

カラー

### 【あらすじ】

後に”最強”と謳われるポケモントレーナーとその仲間たちによって紡がれる冒険のお話。どんなことでも、皆と一緒に乗り越えられる！……ってね？

## プロローグ

わんわんと泣く声が、森の中に響いていた。子供の声だった。

五月蠅いな、としか初めは思わなかった。その時は気づかなかつたが、声はどんどんと移動していったのだった。

そのことに気が付いたのは、声の主が目の前に来たから。

それが、あたしとあいつの出会い。

さて、物語はその数年後に始まることとなる

## プロローグ（後書き）

新連載です。

一話一話は短くなりそうですが、どうぞよろしくお願いします。

……うん、あっちのネタが切れただけだよ……（遠い目）

ちなみに、題名はまだ仮の段階です。

誰か私にネーミングセンスを分けてください……（泣）

## 01 友達

トキワの森のとある切り株の上、オレンジのベレー帽を顔に載せて寝転がっているものが居た。

今日は何処までも良い天気で、木漏れ日が眠気を誘う。流石の彼女も眠気には勝てなかったらしく、すやすやと小さな寝息を立てている。

近づけば近づくほど、彼女が寝ているのが良く分かる。今日は出かける約束したというのに、待ち合わせ場所で寝ているなんて、思いもしなかった。

僕は小さくため息をつく。起こそうかとも考えたけれど、こんなにも幸せそうに眠っていられると、なんともまあ起こし辛いものだ。起こしたら起こしたで不機嫌になるだろうし。

さて、どうしようかと考えながら、彼女の寝ている切り株のほうに近づいていくと、突然彼女がむっくりと起き上がった。彼女の顔からベレー帽が落ちる。

あまりにもいきなりなこと過ぎて固まっていると、彼女は大きな欠伸を一つして、眠そうな目をこすりながら僕の方を見た。そしてどこからどう見ても寝ぼけているのが良く分かる顔で、彼女は僕に尋ねてきた。

『……一体、何しに来たんだ？』

君を迎えに来たんだよ。僕はまた一つため息をついた。

彼女の名は”キラ”。この世界で使われている文字を当てるとするならば、”晄”と書くのだと聞いている。

僕の友達である、”ピカチュウ”だ。

とりあえず、彼女に確認する。

「今日、町を出かける約束だったでしょ？」

『…………ん。そうだった』

そう言いながら彼女はまた大きく欠伸をする。どうやら、まだ少し眠いらしい。

「まったく、今日何もなかったらヒカルのところに行こうと思ってたのに…………」

僕がそうばやくと、彼女が興味深そうな顔をした。

『へえ…………。その理由は？』

「いや、特に。…………暇だったからね」

そう、暇だ。町では僕と遊ぼうとする物好きなどそうそう居ない。…………こんな変な能力を持っている僕なんかと遊ぼうとする奴が居るのなら、そいつは相当の変人だろう。そんな僕の心情などお構いなしに、彼女はそっけなく『そうか』と言った。…………人の気も知らないで。

『お前の気持ちなんて知ってどうなるってんだ』

無意識の内に、さきほどの言葉を口にしていたらしい。しかし相変わらず、まったく歯にももの着せぬ言い方をする。

彼女は僕をちらりと見て小さくため息をつく。そして、いきなり切り株から飛び降り、僕に手を差し出した。

『約束、守ってくれるんだろ？ 案内してくれよ、エスコート馬鹿野郎？』ジェントルマン

そう言ってニコリと笑う。「ジェントルマン」というのが何だかは知らないけれど、本当はいい意味で使っていないだろう。いじいじと悩む僕に対する、あてつけ。

しかたないと僕は呟いて、彼女の手をとる。

彼女と出かけるのは、本当に久しぶりだ。

## 01 友達（後書き）

一話辺り千文字を目標としています。

一時間ほどで書いたせいで、驚きの低クオリティ。

更新頻度は早目かも知れません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0874h/>

---

彼らは足を止めることなく

2010年10月10日03時01分発行